科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名<英訳>	英語リーディング ER26 1S1 English Reading			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 貫井　隆		
群	外国語科目群			分野(分類)		使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	木2	配当学年	１回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

本授業では、近現代の哲学、倫理学、社会学の古典的な一次文献を英語で精読し、主要概念の把握と議論の構造の理解を目指す。原著が英語以外の言語で書かれている場合には、信頼性の高い英訳を用いる。

日本語訳を参照せず、英語で哲学書を読むことにはいくつかの意義がある。まず、日本語訳では漢字の意味等によって独自のコンテクストが生じる場合があるが、英語で読むことでそうした影響を受けずに概念を直接的に理解することが可能になる。次に、日本語と英語では語順や文構造が大きく異なるため、日本語訳では原文の論理展開が変化してしまうことがあるが、英語で読むことにより、思考の流れを原文に即して追うことが可能になる。

また、英語での精読は、一語一語の意味や文構造に細心の注意を払いながら読む姿勢を促し、結果として文内容のより深い理解につながる。この「立ち止まりながら読む」態度は、学術的な思考を鍛えるうえで重要である。

さらに、原文がドイツ語やフランス語など他の欧米言語で書かれた場合であっても、英語はそれらと文法的・語彙的に距離が日本語に比べて近いため、日本語訳よりも原著の思考様式に近い読解体験を得ることができる。

原典を実際に読むことで、解説書では省略されがちな思考の細部や文体の独自の雰囲気、さらに、新たな概念や問いが生まれた当時の知的緊張や発見の瞬間に触れることが可能になる。いわば、ガイドブックを通してではなく、自ら現地を訪れるようにして思想の現場を体験することが、本授業の重要な狙いの一つである。

本授業では英語で一次文献を読むこうした利点を実際に体験しながら、学問的なテキストを読む力を養う。

[到達目標]

・英語で書かれた専門的な文献を読解する力を養う。
・学術的な概念や議論の構造を把握し、それらについて批判的に検討できる。
・英文の和訳、発表、討論を通じて、学術的なコミュニケーション能力を向上させる。

[授業計画と内容]

※扱うテキストや進行度合いは、受講者数・受講者の関心・理解度に応じて調整する場合がある。

1回目　ガイダンス
2回目　ジクムント・フロイト（１）
3回目　ジクムント・フロイト（２）
4回目　ジクムント・フロイト（３）
5回目　ピエール・ブルデュー（１）
6回目　ピエール・ブルデュー（２）
7回目　ピエール・ブルデュー（３）

英語リーディング ER26(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER26(2)

8回目　イヴァン・イリイチ
9回目　「認識的不正義」に関連する文章（ミランダ・フリッカーなど）
10回目　「認識的不正義」に関連する文章（ミランダ・フリッカーなど）
11回目　「認識的不正義」に関連する文章（ミランダ・フリッカーなど）
12回目　「メディア的認識的不正義」に関連する文章（ジャコモ・ペッツァーノなど）
13回目　「メディア的認識的不正義」に関連する文章（ジャコモ・ペッツァーノなど）
14回目　「メディア的認識的不正義」に関連する文章（ジャコモ・ペッツァーノなど）
15回目　まとめ

受講者は各回の担当箇所について和訳と解釈を事前に準備し、授業内で発表・共有することが求められる。

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

・英文テキストの和訳作成・授業中の発表：４０％
・期末レポート（または期末テスト）：６０％

[教科書]

使用しない
英文テキストは教員が配布する。

[参考書等]

（参考書）
入不二基義編 『英語で読む哲学』（研究社、2013年）ISBN:4327452548

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：指定箇所の精読、和訳作成、質問の準備など
復習：授業内容の再検討、参考文献の確認など

[その他（オフィスアワー等）]

講義内容についての質問などは、講義前後の時間に直接教員まで。

[主要授業科目（学部・学科名）]